

第 48 回全国学童保育指導員学校・西日本・愛知会場（20230604）レポート

【クラブ】（ たけのこクラブ ）

【名 前】（ 米本美紀 ）

① 午後に参加した講座のタイトルをお書きください。

理論講座（4） （しょうがいのある子どもの理解をふかめ とともにそだちあう）

※全体講座のみに参加された方は、全体講座のタイトルをお書きください。№と選んだ理由は必要ありません。

本日の講座で心にのこったことや気づいたことや学んだこと、今後の実践に活かしていきたいことなど、感想もふくめてお書きください（自由記述）。

多種多様なしょうがいを持つ子ども達がいて、子どもの行動に「どうして？」と感じる時に主観的な考えで子どもを見るのではなく、多方面から客観的に見て子どもの行動に「なぜ、その行動をしてしまったのか？」「困ったことがあり、それを伝える術がなかったのではないか？」と考えなければならぬと改めて思いました。

子どもの思いに寄り添い、その時の思い、本当はどうしたかったのかと考えなければなりません。全ての行動に意味や理由があって起こす行動だと、肯定的に見てあげなければいけない。

色々な取捨選択を子どもができる環境にすることが大切なんだと感じました。

子どもの姿や行動をどう捉えるのかを考えなくてはならない。

「困っている」ことは大人であって、子どもが「困っている」のとは違うので何に困っているのかを考え一緒に取捨選択をできる関係性を築いていきたいと思いました。

だからといって、しょうがいをもつ子どもが決して「特別」ではなく、しょうがいのない子どもと一緒に楽しく集団生活を送れるように、これからも努力し続けたいと思いました。

また、保護者への配慮も「困ったこと」を伝えるのではなく、「これをしたかったと思うのだけれど、上手く導いてあげられなかったので、次はこうしてみようと思います」と、伝え子どもを否定的ではなく、肯定的に伝えていくことも保護者との信頼関係にも繋がり一緒に子育てができるはずだと感じました。